

人権相談所を開設します

人権相談所では、差別、いじめ、嫌がらせ等、人権に関する問題の相談を受けています。

【常設人権相談所】

法務局では毎日（休日を除く）人権相談に応じています。

山口地方法務局岩国支局

（岩国市錦見一丁目16-35）

☎0827（43）1125

〈平日 午前8時30分～午後5時15分〉

【特設人権相談所】

町内で毎月1回1会場（午前9時30分～正午）にて、地域の人権擁護委員による特設人権相談所が開設されています。
※悪天候により警報等が発令された場合は中止になることがあります。

『令和3年度計画』

○久賀総合センター

4月6日(火)、8月5日(木)、12月3日(金)

○大島庁舎

5月6日(木)、9月3日(金)、1月7日(金)

○橘総合センター

6月8日(火)、10月5日(火)、2月4日(金)

○東和総合センター

7月6日(火)、11月5日(金)、3月4日(金)

■問い合わせ

福祉課 民生福祉班

☎0820（77）5505

周防大島の文化財 ④1

張六左衛門ゆかりの宝篋印塔・五輪塔（東安下庄）

《周防大島町文化財保護審議会委員 正久武則》

東安下庄原の小高い丘の上に立派な宝篋印塔がある。これが張六左衛門の墓である。

張六左衛門の父張忠は、明（中国）から来日した医師である。当時、明では同列のものが互いに勢力争いをしていた。このままでは、殺されると思ひ船で朝鮮へ逃げようとしたが暴風に遭ひ肥前国平戸に漂着した。そのことを平戸の守護、松浦氏は、大内義隆に報告した。大内義隆は張忠を呼び寄せ山口に住まわせた。

張忠は医師が得意で、毛利隆元の子孫の重い病気を治し、また明の兵法などを説き聞かせたこともあり、毛利家ではこれは得難い人物であると家臣になった。毛利元就は孫の輝元にも「明人・張忠は、世に仕えて、まことに忠義であった。「忠」の子孫を捨て置いてはならぬぞ」と言い残した。

張忠の子・思朝は輝元に仕え「元至」という名と、「六左衛門」という日本名を賜った。六左衛門は力量があつたので藩の重臣の列に加えられるて重く用いられた。そして輝元の長男秀就の養育の任も務めていた。

しかし、それを妬む者の讒言にあつた。輝元は六左衛門に死罪を命ずることにした。江戸出張の帰りの六左衛門の船と輝元の使者が立島沖で出会い、死罪を言い渡した。六左衛門は身に覚えのない罪ながら君主の命で仕方なく古城の浜に上陸し切腹をした。慶長6年（1601）8月27日のことである。この時引導を渡したのが秋の永明寺住職で、首を



▲永明寺の五輪塔

持ち帰り厚く葬り塚を建てた。これは、永明寺境内にある五輪塔の首塚である。その後、六左衛門の名誉は回復し、永明寺に百回忌、二百回忌に毛利藩から御供物が贈られている。現存する墓所は大正時代に改修されたもので、灯籠には「大正四年十月 張忠一 張令紀」と刻まれている。

六左衛門の墓は古墓様と呼ばれ、故人の遺徳をしのび、また首から上を治してくれるといわれ参拝者も多くあつた。今は周りの畑も荒れ果て道も険しく訪れる人もほとんどいなくなった。



▲法浄寺丘の宝篋印塔